ひとにやさしい・やきものづくり

－　チーム KDS　笠間焼フードガードの開発　－

＊＊　＊＊*　　尾形　尚子**

１．はじめに

チーム KDS（かさま・デザイン・スピリッツ Kasama Design Spirits）は、平成 13 年「笠間焼商品開発研究会」としてスタートし、平成 16 年にチーム KDS と名前を改め、製陶業者、医療･福祉関係者、栄養士、障害者支援団体などを交えて、「人にやさしいやきものづくり」の研究を行なっている。ユニバーサルデザイン（UD）の考え方を取り入れ、子供やお年寄りなど、「誰にでも優しく使いやすい器づくり」を目指している。

平成 18 年度は、チーム KDS の活動の一部として、フードガードの開発を行なった。

２．目的

一般の洋食器･お皿など折り返しのないお皿では、スプーンで食べ物をすくい上げることが難しくなる。フードガードとは、皿に「壁」のような折り返しのつけ、スプーンですくい易くするための用具のことである。現在、市販されているのは、プラスチックのお皿に付属のプラスチックフードガードを取り付けるものや、金属製のフードガードをはめ込むタイプの物である。そこで、環境にもやさしく、見た目も楽しめる陶器製のフードガードを開発した。食にハンディがある人もない人も、みんなが食事を楽しめるよう、お皿にさりげなく置く、ひとにやさしい笠間焼のフードガードを目指した。

図１・図２：プラスチック製フードガード
下部のお皿と上部のフードガードは取り外しができる。

３．内容

3.1 製作意図

市販されているプラスチック製などの味気ないフードガードではなく、チーム KDS として笠間焼ならではの「ひとにやさしく・楽しいもの」をデザインした。大きさは、幅 7 cm 高さ 1.5ｃｍほどの小さいものから幅 15ｃｍ高さ 10ｃｍくらいのもの。形は、うさぎや猫などの動物をデザインしたものや、半円形の抽象的なデザインのものなど、バラエティ豊かである。いずれも底辺は平らで、手持ちのお皿に設置しやすくなっている。フードガードの立ち上がりを利用して、スプーンですくいやすくするのと同時に、楽しい「食」を演出する道具のひとつとして活用してほしい。

3.2 使用・接着方法

使用者の身体機能能力に応じて、使用･接着方法を変えることができる。スプーンを持つ手の反対側の手が、動く場合は、接着しなくても、反対側の手で押さえて使用することができる。

市販の入れ歯安定剤を使用し、お皿に圧着させると、固定できるので、片手でもスプーンですくい易くすることができる。（口の中に入れても安心な入れ歯安定剤を使用するので、衛生的である。）取り外す時は、横に力を加え、フードガードを倒すようにすると、簡単にはずせる。

図３：入れ歯安定剤を使用する。

図４：圧着、固定させる。（つばめ窯　高橋協子作）

*＊＊＊＊部門　　**＊＊＊＊部門

図５：フードガード使用例１（つばめ窯　高橋協子作）

図６：フードガード（幅７㎝高さ 1.5㎝くらいの小さいタイプ）使用例２（窯業指導所　提案）

図７：いろいろなフードガード（つばめ窯　高橋協子作・矢野下小林工房　小林良子作・窯業指導所）

４．結果及び考察

フードガードの大きいタイプのものは、お皿のカーブを選ばなくてはならないという問題が生じるが、接着する際に、入れ歯安定剤を多めに使用する、なるべく平らなお皿を使用するなどの工夫で解消可能である。また、小さいタイプのフードガードは、レストランなどにも携帯可能である。

制作する側にとっては、比較的小さい物なので、窯詰めをする際に、隙間を利用することができ、窯の効率も考慮することができる。利用側は、フードガードして使用しない際､箸置き･ペーパーウィイトなどにも代用でき、遊び心をくすぐるものではないだろうか。

お店のロゴをいれたり、お誕生日やお正月・ひな祭り･クリスマスなど季節ごとにテーマを持たせたりする等、これから益々バリエーションが増え、選ぶ側にも楽しみが増えるのではないかと期待できる。

５．まとめ

チーム KDS では、異業種の活発な意見交換を行うことで、従来の笠間焼の特徴であった作り手発想から使い手発想へ転換するものであり、絶えず変化するニーズや個別オーダーに対応する体制作りができてきた。

また、KDS の提案する「人にやさしい・やきものづくり」は、誰もが使い易いユニバーサルデザインから障害を持つ個人の機能にあわせたバリアフリーまで幅広く対応できる体制から作り出される食器具である。人間らしく生きていくための基本である「食べる」こと、少しでも多くの方に自分に合った食器を見つけていただき、食べる楽しみをいつまでも持ち続けてもらいたい。

謝辞

KDS 会員の皆様、また、KDS に関わってくれている全ての方に感謝いたします。

参考文献

1）茨城県工業技術センター研究報告書第３２号 P51～52

2）「楽食しよう」報告　　茨城県歯科医師会食文化研究会　歯科医師　塙章一